

27年5月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成27年5月1日～ 27年5月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
5月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/5月	6月	7月
仕入 動向	国産材製材品	21.4	7.1	14.3
	外材製材品	7.1	7.1	14.3
	構造用集成材	28.6	14.3	21.4
消費 動向	国産材製材品	7.1	0.0	7.1
	外材製材品	28.6	7.1	14.3
	構造用集成材	35.7	21.4	21.4
在庫 動向	国産材製材品	7.1	△ 7.1	△ 7.1
	外材製材品	△ 7.1	△ 7.1	△ 7.1
	構造用集成材	28.6	0.0	△ 7.1

・プレカット加工用部材の仕入は3ヵ月連続して増加、

・プレカット加工用部材の消費は、国産材の6月の横ばいを除いたほかは全て3ヵ月連続して増加。

・在庫は、国産材製材品は5月の増加が6月、7月は減少、外材製材品は3ヵ月連続して減少、構造用集成材は5月の増加が6月は横ばい、7月は減少。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	27/5月	6月	7月
受注	12.5	18.8	25.0
加工	12.5	25.0	25.0
受注残	12.5	6.3	6.3

・プレカット工場の動向は、受注、加工及び受注残共に3ヵ月連続して増加。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

・仕入国産材は原木、製品とも少なめ。外材は問題なし、補充買い。加工費に比例して順調に消費。在庫はやや多めで推移。
・全体的に価格は弱含み、手当てもしやすい。一部不足感のある品目は、WW KD間柱の4m物と米マツKD羽柄材の#2のみ。消費は連休前がピークで5月中旬まで静か、5月20日以降に元の消費に戻る。次のピークは7月頃の見通し。全体在庫としては5月に一気に増えるが、その後は市況を見ながらの微増の見通し。
・4月からの県産材補助金で国産材使用（ヒノキ、スギ、地松）が増加。
・供給状況は安定、消費はまあまあの動き。

(受注動向)

・連休明けより稼働率上昇。
・春需のピークは4月～5月10日まで、その後は落ち着いて、6月以降は増加に転じていく。昨年の春需に対して今年は+15%増だった。
・梅雨時減少するが、梅雨明け、盆前に増加すると思う。
・定時の就業時間で賄える加工量である。